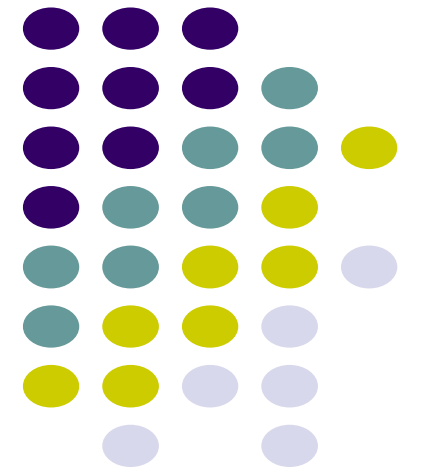


板橋区立 成増ヶ丘小学校の NIE活動



はじめの一歩の





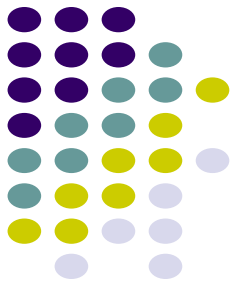
1. 無理なく始める

職員室で新聞スクラップを紹介



読売ワークシート通信を紹介





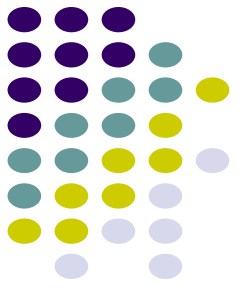
2. 無理なく進める

号外を掲示



えがおをあつめよう





3. 無理なく広げる

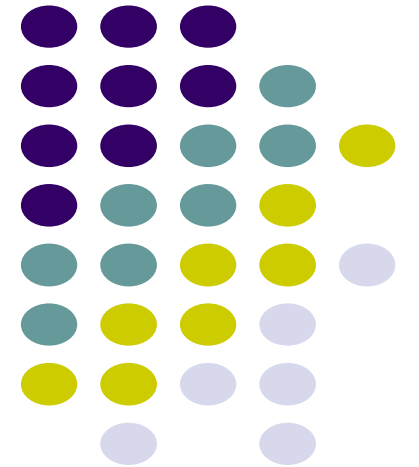
かんたん号外くんへ（新聞委員会） 7月～



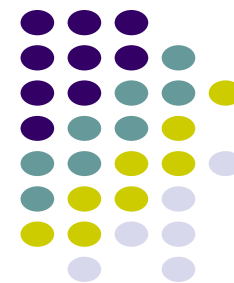
5年社会科

単元「世界の中の日本の国土」

板橋区立成増ヶ丘小学校
島崎安章



単元計画



この時間の問い

世界のどこに、
どのような国や大陸、
海洋があるのだろう。

この時間の問い

日本と世界の国々との
位置関係は、
どうなっているだろう。

この時間の問い

日本の国土のはん^い囲や形、
周りの様子は
どうなっているだろう。

この時間の問い

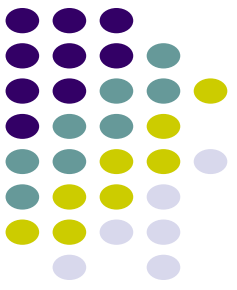
どこまでが
日本なのだろう。

まとめる

みんなで
つくった 学習問題

世界の中で、日本の国土は
どのように広がっているのだろう。

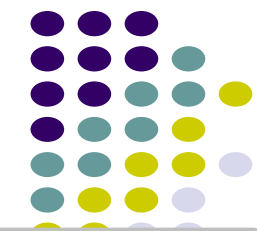
はがき新聞で
まとめる



取り組み

- 単元を貫いたノートをふりかえりながらはがき新聞にまとめる。
(学習したことで「学んだこと」や「伝えたこと」)
- できあがったはがき新聞を互いに読み合う。
- 友達のはがき新聞から得た情報をノートに追記する。
- はがき新聞コンテストを実施。

● 児童の作品



日本の島

西のほし
・与那国島
・沖ノ島
・南島

北のほし
にあるロシアに
とらわれてしま
った島

東のほし
・択捉島
・国後島
・色丹島
・歯舞群島
・千島群島

日本が
ひとりで
めぐる

日本のやま

日本のやまの海

日本

ふり返り

お母さんの友達
のおじいさんのお
はなが択捉島
にある。たたくて
お母さんの友達
はおおじいさんの
おはながにいいな
いのであらためて
ロシアはさいてい
ました。日本はな
はな島が自由をう
りました。

世界の日本新聞

日本の広さについて

排他的
経済水域
についてです

排他的経
済水域とは
海底にある
資源の開発
をその国が
使える
場所の
ことです。

日本の排他的経
済水域は世界
6位の広さです。
広さは約
447万km
です。すこ
く
広いですよね。

北
東
南
西

国後島

排他的
経済水域

択捉島
歯舞群島
千島群島
与那国島
南島

⑤ 調べた事をまとめるのが楽しかった!

日本新聞

2024年

日本は海で有利な三大海洋

日本は国土は小地球には三大海洋といえます。中でも北方はさく不利に見え、いえるメインの海洋が冷たい島小大陸ですが、一方で排他的経済水域が広いという、利点があり海の中の資源を使えることができます。

① 太平洋
② 大西洋
③ インド洋

日本に
面している。

三大海洋が五大海洋

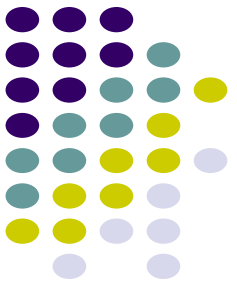
日本の島は多い！
日本には島が万四千二百二十五の島がらでできています。中でも北方領土や竹島小笠原諸島では島がうばわれそうになっていきます。

調べてみて、日本の排他的経済水域

6-1-1

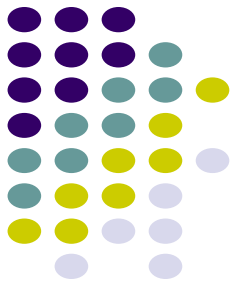
公益財団法人 理想教育財団

児童のふりかえり



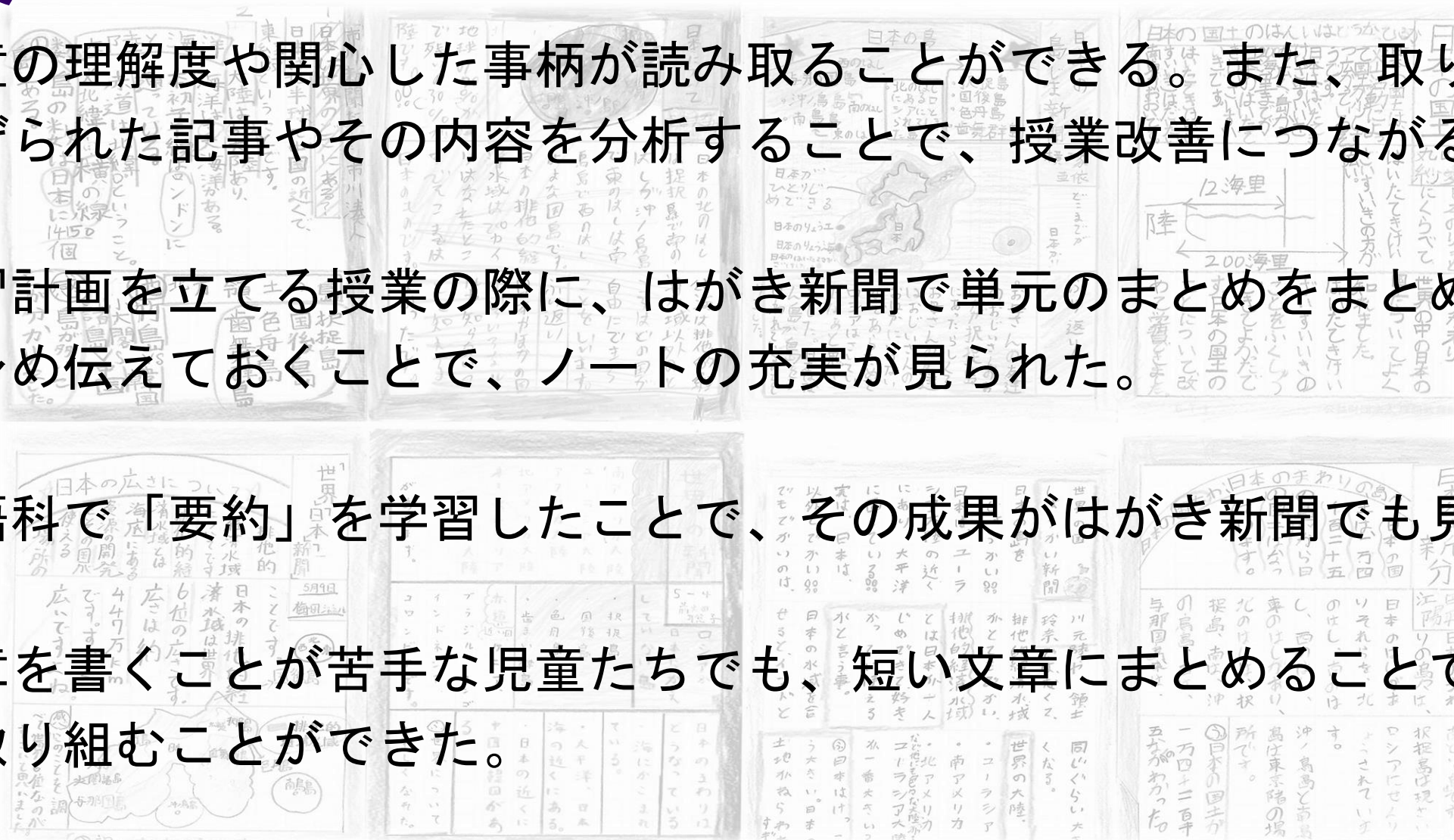
- 自分のびっくりしたことをみんなにも絵や図で伝えられるのが楽しい。
- 今まで学習したことをはがき新聞に書くと覚えられるから好き。
- 決まり事が少ないから書きやすい。自分なりにできる。
- 友達が読んでいる様子を見るのがうれしい。
- 要約の勉強になる。
- はがき新聞は小さいから、書ける所が少ないけど、その分、自分の言いたいことがはっきりする。
- 短い文章でまとめられるのが好き。

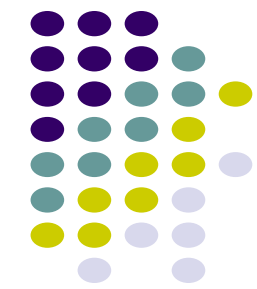
など



成果

- ① 児童の理解度や関心した事柄が読み取ることができる。また、取り上げられた記事やその内容を分析することで、授業改善につながる。
- ② 学習計画を立てる授業の際に、はがき新聞で単元のまとめをまとめることを予め伝えておくことで、ノートの実績が見られた。
- ③ 国語科で「要約」を学習したことで、その成果がはがき新聞でも見られた。
- ④ 文章を書くことが苦手な児童たちでも、短い文章にまとめることで意欲的に取り組むことができた。





今後の試み

昨年度、第6学年で1回、今年度、第5学年で2回実施した。いずれも社会科の単元の「まとめ」段階で取り入れた。次回は、「つかむ」段階で取り上げ、「なぜ」や「どうして」をはがき新聞に表現し、互いに発表し合う（読み合う）ことで、「解決したい！」という興味や関心を引き出す手立てにしたい。そして、学習問題づくりへとつなげていく。

